

動物実験に関する検証結果報告書

名古屋学芸大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2021年3月

2021 年 3 月 4 日

名古屋学芸大学
学長 杉浦 康夫 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 三好 一郎



対象機関：名古屋学芸大学
申請年月日：2020 年 7 月 28 日
訪問調査年月日：2020 年 12 月 10 日
調査員：長尾静子

検証の総評

1963 年に設立された「すみれ女子短期大学」を起源とし、2002 年に開学した名古屋学芸大学は、4 学部と大学院研究科で構成される私立大学である。改名時に設立された管理栄養学部では、1 か所の飼養保管施設において、マウスとラットを対象に動物実験が行われている。「名古屋学芸大学動物実験規程」のもとで動物実験委員会が組織され、動物実験計画の審査、承認、結果報告、教育訓練、自己点検・評価等が文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」に則して概ね適正に実施されている。飼養保管施設は基本指針及び環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」に則して実験動物の飼養保管及び動物実験が適正に行われている。実験動物管理者は職務を適切に行っており、情報公開もホームページに掲載されている。しかしながら、規程に一部不十分な点が見受けられるので、改善を検討されたい。以上の点を総合的に判断すると、名古屋学芸大学における動物実験は、概ね適正に管理・実施されている。飼養保管施設の良好な管理体制を維持し、適正な動物実験の実施が継続されることを期待する。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する機関内規程を定めている。
- 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

名古屋学芸大学動物実験規程が定められ、学長が名古屋学芸大学で実施されるすべての動物実験の実施に関して把握するなど、その内容は基本指針に則したものである。よって、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

4) 改善に向けた意見

国立大学法人動物実験施設協議会や公私立大学実験動物施設協議会で策定された、最新の機関内規程のひな形を参考に、動物実験規程に機関の長の責務や、動物実験委員会を機関の長の諮問機関に位置付けることを明記し、規程を充実されたい。また、指針の名称等の誤記を点検されたい。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。
- 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会を設置していない。

2) 自己点検・評価の妥当性

名古屋学芸大学動物実験規程において基本指針に則した委員構成等が定められている。よって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。

- 動物実験委員会は置かれていない。

4) 改善に向けた意見

動物実験委員会の成立要件や決議要件の記載、並びに委員の増員を検討されたい。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。
 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
 動物実験の実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

名古屋学芸大学動物実験規程において、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告等の手続きが規定されており、これらの手続きに必要な様式も整備されている。よって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

書類の書式等の一部修正を検討されたい。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。
 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
■ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

該当する動物実験を行っていない。よって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 該当する動物実験の実施体制が定められていない。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。 |

4) 改善に向けた意見

特になし。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 |
| <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 |
| <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 |

2) 自己点検・評価の妥当性

名古屋学芸大学動物実験規程に基づき、飼養保管施設の設置が承認され、管理者及び実験動物管理者が定められている。また、動物実験施設飼養・保管マニュアルが定められ、実験動物の基本的な飼養保管体制が整備されている。よって、実験動物の飼養保管の体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 |
| <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 |
| <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 |

4) 改善に向けた意見

特になし。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

動物実験委員会の他に、動物実験自己点検・評価委員会を設置し、動物実験委員会の活動を点検・評価している。動物実験委員会と動物実験自己点検・評価委員会の兼任者はなく、客観性が保たれており、評価できる。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験委員会により動物実験計画書の審査、実施結果に対する助言、飼養保管施設や実験室の視察、教育訓練、基本指針や機関内規程に定められた動物実験委員会の活動が適正に実施され、議事録も保管されている。また、自己点検・評価は、動物実験委員会とは別に設置される動物実験自己点検・評価委員会が実施している。よって、動物実験委員会の実施状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針に適合し、適正に機能している。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

動物実験結果報告書の記入欄の『特記事項』に（実施結果に対する助言等）を追記することで、実施結果に対する助言を活性化することを計画し、すでに改定されている。ぜひ活用されたい。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

基本指針や機関内規程に則して動物実験計画の審査が行われ、2019 年度には 9 件の計画が承認された。動物実験結果報告書（実施結果報告書）と動物実験の自己点検票（様式 2-1）の提出率は共に 100% である。よって、動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。

<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見 特になし。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。
2) 自己点検・評価の妥当性 該当する動物実験を行っていない。よって、安全管理を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。
3) 検証の結果 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
4) 改善に向けた意見 特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性 実験動物飼養保管状況の自己点検報告書によって飼養保管施設は動物実験委員会により把握されている。また、飼養保管施設における実験動物の飼養保管は、動物実験規程や飼養保管マニュアルに従い、実験動物管理者のもとで適正に実施されている。よって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

基本指針や飼養保管基準に則り、管理者及び実験動物管理者によって施設等が適正に維持管理されていることが、本年度に実施した動物実験委員会による調査、視察で確認されている。よって、施設等の維持管理の状況について、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」との自己点検・評価の結果であるが、「基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

2019 年度の自己点検・評価の際に、改善の方針として、「委員会が、定期的に調査、視察を行うことを規程等に定め、実施する」ことが計画され、調査と視察については本年度すでに実施されている。2021 年 3 月に規程への記載を計画していることから、推進されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

教員にはDVD等を用いて教育訓練が実施され、学部学生には実習前の講義にて教育訓練が実施されている。教育訓練の実施記録や受講者の記録等は整理・保存されており、訓練内容も概ね妥当である。実験動物管理者や動物実験委員についての教育訓練については、外部の研修会を受講することが計画されているが、現時点では実施されていない。よって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

改善の方針として、「実験動物管理者や動物実験委員が外部の研修会を受講すること」が計画されていることから、推進されたい。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

基本指針に則した自己点検・評価が、動物実験自己点検・評価委員会により適正に行われており、大学ホームページに名古屋学芸大学動物実験規程、飼養及び保管の状況（実験動物飼養保管施設一覧、動物種／飼養数）、前年度の実験計画書の年間承認件数、前年度の教育訓練の実績、動物実験委員会の情報が公開されている。よって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

本報告書の内容を機関内の動物実験関係者で情報共有するとともに、大学ホームページで本報告書を公開されたい。

2020 年度 検証結果報告書（名古屋学芸大学）

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

特になし。